

3-4. 檜原村産業環境課（東京都檜原村）

(1) アドバイザー派遣申請の背景

●地域の概要

【人口】2,350人（H27.11.30現在）

【面積】105.41k㎡

【地勢】

檜原村は、東京都の西端に位置し、東西13.85km、南北10.00km、総面積105.41k㎡の村域を形成している。また、村の北西部を奥多摩町、北東部をあきる野市、南東部を八王子市、南部を山梨県上野原市と神奈川県相模原市にそれぞれ接している。多摩川の支流である秋川の源流に発達した村で、都心から約60km、標高1,531mの三頭山に連なる急峻な山稜に周囲を囲まれ、さらに村の中央に標高約900mの浅間尾根が東西に走り、秋川と北秋川とに分けている。

村内での標高差は1,307mで15度以上の急傾斜地が総面積の約9割を占め、これらを背にした川沿いに集落が点在している。

また、村域の約7割は秩父多摩甲斐国立公園に指定されており、約2割が特別区域に指定されている。

【気候、自然】

気候は、寒暖の差が比較的大きく、夏期は高温多湿、冬期は乾燥寒冷である太平洋岸気候区に属している。都心部に比べ標高が高く、山間部にあるため、平均気温では約2℃低い15℃、年間降水量はほぼ同じで約1,600mmとなっている。

村の総面積の約93%を森林が占め、緑豊かな自然環境に恵まれ、また、急傾斜地であることから村内には50を超える滝がある豊かな水資源に恵まれた美しい地域である。

【歴史】

檜原村の尾根道は、古来より関東平野部と中部山岳部を結ぶ交通路として栄え、縄文時代初期の中之平遺跡が残る。中世には、村を東西に走る浅間尾根は武蔵と甲斐を結ぶ古甲州街道とも呼ばれ、交通上の要衝となり、甲斐の武田氏の関東侵略に備えるため、檜原城が築かれた。後北条氏の滅亡とともに檜原城も落城し、廃城となったが、江戸時代においてもその重要性は変わらず、江戸幕府による街道整備により甲州中道となり、口留番所が設置された。明治時代になり、蕪山県に属したが、その後神奈川県へと編入され、明治22年に市町村制施行され、立村した。明治26年に東京府へ編入されたが、立村以来、一度も合併することなく、村名も区域も変わらず、現在の形まであり続けている非常に珍しい村である。

【観光】

檜原村は、村域の約7割が秩父多摩甲斐国立公園に属し、村の中央を浅間尾根が走り、村の北側から西側にかけては、大岳山、御前山、三頭山の奥多摩三山が連なり、南側を笹尾根が走っている。村内を流れる秋川と北秋川は村内を源流とし、見事な渓谷美を作り上げている。また、村内には50を超える滝があるなど、豊かな自然資源を有し、風光明媚な景観を作り上げている。春から秋にかけては、多くの登山客やハイカーで賑わい、また、夏には秋川やその支流で川遊びやバーベキュー客で賑わう。

都内で唯一「日本の滝百選」選ばれた払沢の滝や檜原都民の森には都内で最初に「森林セラピーロード」に認定された大滝の路があり、また、都指定天然記念物の神戸岩は、年間を通じて多くの観光客で賑わっている。

また、近年は自転車ブームもあり、また、平成25年に国体のロードレース会場となったこともあり、多くのロードバイク愛好者が訪れている。

【地域資源の概要】

①観光資源

- ・日本の滝百選：「払沢（ほっさわ）の滝」
- ・都指定名勝：「三頭大滝（みとうおおたき）」
- ・都指定天然記念物：「神戸岩（かのといわ）」
- ・奥多摩三山：「大岳山（おおだけさん）」、「御前山（ごぜんやま）」、「三頭山（みとうさん）」
- ・森林セラピーロード：「大滝の路（おおたきのみち）」
- ・温泉：「檜原温泉センター数馬（かずま）の湯」
- ・自然公園：東京都檜原都民の森
- ・関東ふれあいの道（首都圏自然歩道）：3路線 歴史のみち、鍾乳洞と滝のみち、富士見のみち
- ・浅間尾根、浅間嶺
- ・秋川溪谷、北秋川溪谷
- ・村内50か所以上の滝（中山の滝、天狗滝、綾滝、花水の滝、夫婦の滝、雨乞の滝、吉祥寺滝、龍神の滝、九頭竜の滝など）
- ・教育の森、ふるさとの森

②文化・歴史

- ・国指定重要文化財：小林家住宅
- ・都指定史跡：「檜原城跡（ひのはらじょうせき）」
- ・兜造りの家
- ・都指定無形民俗文化財（風俗習慣）：春日神社の御とう（とうは食へんに同）神事
- ・都指定無形民俗文化財（民俗芸能）：小沢の式三番、笹野の式三番、柏木野の神代神楽、数馬の太神楽・獅子舞、藤倉の獅子舞、人里の獅子舞

③その他

- ・じゃがいも（おいねつるいも）
- ・じゃがいも焼酎
- ・ゆずワイン
- ・ひのはら漬
- ・ひのはら紅茶
- ・ルバーブ
- ・山菜、山菜料理
- ・手作りこんにやく
- ・檜原豆腐、うのはなドーナツ
- ・舞茸
- ・おいねめし
- ・木材工芸品

●アドバイザー派遣申請の背景・これまでの取り組み

檜原村は、かつては林業が基幹産業であったが、木材価格の低迷等により、森林経営は厳しいものとなり、新たに村の豊富な自然資源を活かした観光業が基幹産業となっている。しかしながら、村の基幹産業であるにも関わらず、村の観光振興に関する計画は策定されておらず、村全体の観光振興施策については、檜原村総合計画に基づき実施されている。

最近、メディア等に村を取り上げられることも多く、村に対する注目度は増しており、年間30万人を超える観光客に、より満足してもらうためには、村として総合計画に基づいた大きな方向性を持った観光振興を策定することが急務である。

現在、檜原では観光ビジョン作成のために、村内26自治会への観光資源洗い出しヒアリング、村内で活躍するガイドへのヒアリング、村内の観光に関する文献・資料等の収集・整理等を行っている。近

年の著しい社会情勢の変化等による多様化した観光ニーズに応えるためには、村域の約7割が国立公園に指定されるなど豊富な自然資源を活かした村内の観光資源をくまなく洗い出し、村全体の観光振興を図るエコツーリズム推進のための全体構想の作成が必要である。

このアドバイザー派遣事業を平成24年25年NPO法人フジの森が、26年檜原村観光協会が実施しており、また、上記のような背景及び地域課題から檜原村ではエコツーリズム推進の機運が高まっている。

そこで、エコツーリズム推進のための全体構想を構築する上で、檜原村職員と檜原村内の観光事業関係者に指導を希望するものである。

(2) アドバイザー派遣の実施概要

日 時	平成28年1月26日(火)～平成28年1月28日(木)
場 所	東京都西多摩郡檜原村
アドバイザー	北海道大学 国際広報メディア観光学高等研究センター 特任教授 真板 昭夫氏
参加者	計29名
スケジュール・方法	【1日目】講演会打ち合わせ、担当職員へのエコツーリズム概論説明 【2日目】講師と村長の懇談、講師による講演会 【3日目】今後のエコツーリズム推進についての打ち合わせ

(3) アドバイスの内容（議事録）

【講演】「エコツーリズム概論」・「エコツーリズム推進法の概要」

1) 「エコツーリズム概論」

- ・ エコツーリズムの定義は、①地域固有の自然・文化・歴史資源を活用し、地域主体の観光産業を成立させること、②それらの資源が持続的に利用できるよう資源を保全していくこと、③観光の波及により地域経済の活性化に資すること
- ・ エコツーリズムは、「旅行の推進」、「環境の保全」、「経済の活性化」の三角形で成り立っている。「環境の保全」の環境は、日本型エコツーリズムでは、自然環境だけでなく、人の手の入った自然や生活・習慣等も含まれる。
- ・ 「観光」とは、「国の光を観る」こと。「光」は、その地に住む人々が「最も自慢するものであり、「他者に誇れるもの」。自慢すべき「光」の多いところほど発展は持続化し、結果として「観光客」は増加していく。
- ・ 地域資源を探すことを「宝さがし」と呼ぶ。「宝さがし」には5つのフレームがある。①自然＝生物の戸籍簿、②生活環境＝生きるための知恵の体系、③歴史・文化＝先人の足跡、④産業＝外部世界への発信、⑤名人＝地域の知恵袋
- ・ 「宝さがし」から「地域づくり」への展開が必要。①「宝をさがす」、②「宝を磨く」、③「宝を誇る」、④「宝を伝える」、⑤「宝を活かす（興す）」

- ・ 「エコツーリズム」と「エコツアー」の違い。「エコツーリズム」は、理念や仕組みであり、「エコツアー」は、体験プログラムや商品のこと。「グリーンツーリズム」は「エコツアー」である。
- ・ 「エコツーリズム」は、自然とのふれあいや観察会、環境教育を目的とした学校の団体活動、農山漁村での生活体験を通じた理解、民俗・文化とのふれあい、環境保全への貢献活動等といった資源や目的に応じた多様な展開が可能である。
- ・ プログラムには多様なレベルがあって良い。
- ・ 旅の力を活用した地域デザインとして、5つの力がある。①地域の歴史、自然、伝統、生活などについて、学び楽しみつつ、それらの発掘・育成・保存の促進に寄与できる「文化の力」。②ツアーを通じて地域の環境保全に幅広い貢献ができる「環境保全貢献の力」。③旅による自然や人とのふれあいを通じ、異文化への理解など人間形成の機会を広げる「教育の力」。④日常からの離脱による新たな刺激や感動、遊・快・楽・癒しなどを通じ、からだやこころの活力を得、再創造へのエネルギーを充たす「健康の力」。⑤地域間における相互理解、友好の促進を通じ、安全で平和な社会の実現に貢献できる「交流の力」。

2) 「エコツーリズム推進法の概要」

- ・ 「エコツーリズム推進法」成立の背景
- ・ 「エコツーリズム推進法」の目的
- ・ 「エコツーリズム推進法」の基本理念
- ・ 「自然観光資源」の定義
- ・ 国の役割、市町村の役割
- ・ エコツーリズム推進協議会について
- ・ エコツーリズム全体構想について
- ・ 全体構想策定のスケジュールについて

【打ち合わせ・懇談等】

- ・ 現在、村が策定している観光ビジョンにおいて、エコツーリズムにおける「宝さがし」を行っているので、全体構想の策定については、比較的早くできると思われる。「宝さがし」で見つけた「宝」を磨き、興すことが重要。興した宝が観光大使である。岩手県二戸市の事例の紹介。
- ・ 東京から2時間程度で来ることができ、村の立地は申し分ない。資源も豊富である。
- ・ 現在は「村」がブランドである。
- ・ 2020年の東京オリンピックは大きなチャンスである。オリンピックまでに檜原村版のエコツーリズムの確立が必要。
- ・ 全体構想については、宝さがしが終了しているので、1年から1年半でできる。
- ・ 今後は、人材育成が必要。また、産業（特産品）をたくさん興し、それを上手に宣伝すること。売り方にも工夫が必要。産業は観光大使である。



1 日目：講演会打ち合わせ



2 日目：懇談



2 日目：講演会



3 日目：打ち合わせ

(4) アドバイザー派遣実施の効果

1) 参加者や関係者に与えた効果

- ・ エコツーリズムについての理解が得られた。
- ・ エコツーリズムの推進方法についての理解が得られた。
- ・ エコツーリズム全体構想の策定スケジュールが明確になった。
- ・ エコツーリズム推進協議会についての理解が得られた。

2) 今後、期待される効果（具体的な活動の展開など）

- ・ エコツーリズム推進協議会の発足
- ・ エコツーリズム全体構想の策定

3) 今後の取り組み

平成 28 年度よりエコツーリズム推進協議会を組織し、村全体を巻き込み、エコツーリズムの推進を図るとともに、エコツーリズム全体構想の策定を行う。

(5) 今後の取組推進にあたり参考となった事項、その他感想

1) 参考となった事項

今回の講演を実施したことで、これから推進しようとする「エコツーリズム」というものがどういうものかということが村職員及び観光事業関係者の中で理解を深めることができた。また、平成 28 年度よりエコツーリズム推進協議会を発足し、エコツーリズム全体構想の策定を予定しているが、協議会委員の選出の仕方や全体構想の策定スケジュールやイメージについて、今回の講演で明確となった。

他地域での参考事例の紹介もあり、現状の課題についても認識することができた。

2) その他感想

貴重なアドバイスをたくさん頂き、非常に参考となった。今回の事業で学んだことを活かし、今後のエコツーリズムの推進を図り、檜原村がエコツーリズムの 1 つのモデル地域となるような取組を推進していきたい。

(6) エコツーリズム推進アドバイザーから地域へのアドバイス

真板 昭夫氏 (北海道大学大学院 国際広報メディア・観光学院 特任教授)

1) 地域における取組の現状と課題

①現状の取組

村では産業課と企画課が中心となりエコツーリズムの推進に力を入れている。近年数人のガイドによるエコツアーも行われている。

②課題

ガイドの養成と村を中心とした推進組織体制作りが課題となっていた。

2) 特に魅力を感じた地域資源等

①魅力を感じた地域資源

村役場の各課が一体となって取り組もうとしている意気込みを感じている。とくに魅力ある資源としては、重要文化財に指定された小林家住宅とその周辺のミツバツツジ群落の一体的な景観と、その場への移動手段としてのトロッコ列車はエコツアーの魅力的な資源対象と言える。

②上記地域資源に魅力を感じた理由

集落が一团となって誘客に熱心であり、将来この場所に馬搬のツアーを組み入れて活性化させようとしている。

3) アドバイス（講義等）の概要

第一部ではエコツーリズムの概論の講演、および第二部では推進協議会の立ち上げ手順や、全体構想策定までの課題、体制作りについてアドバイスを行った。

4) エコツーリズム推進全体構想への取組状況・意向について

①全体構想への取組状況について

2015年度において各地区のヒアリングを実施して観光基本構想を策定している。その計画に基づき、2016年度において、推進協議会を立ち上げ2年計画で全体構想策定、およびエコツアーガイド養成講座をすべく予算を計上している。

②全体構想策定への意向について

村としては2020年オリンピックイヤーに向けて全面的に取り組んでいく意向である。

③全体構想認定に向けて、今後必要なこと

役場内のどの部署が全体の取りまとめ部署として機能させるかの町政課題が残っている。

5) 地域に対する印象、今後地域に期待すること（メッセージ）

スロースターターであった檜原村は、村長の意向もあって2015年度から急激にスピードアップしながら取り組みの充実を図っている。この勢いで2017年までに陸部の村として最初のエコツーリズム全体構想認定地域となることを期待。